# 学校運営協議会の評価（学校関係者評価）

児童・生徒及び保護者が行った学校・授業評価をもとに、学校による自己評価について、１２月１１日（金）の第２回学校運営協議会で検討し、以下のように評価しました。

## 1　学校づくりの評価について

・スクールパートナーズの活動状況は、中止もあるがかなりの活動が実施されてきた。今年度から放課後こどもチャレンジ教室もスタートした。保護者、ボランティアがたくさん来てくれている。
・小６児童からクラブを作ってほしいと提言があった。そういう声をもとに教室化（放課後こどもチャレンジ教室）していけたらと思う。
・１年生の授業の見守りでは、この学校の卒業生が参加してくれて、協働の学びの成果を体現してくれ非常に助かった。
・コミュニティースクール立ち上げのときに「保護者も学べる教室」をとの話があったが、１０月の放課後こどもチャレンジ教室「お山の学校」には、保護者の参加者も多く、また、ボランティア登録の希望も多く、それが実現できていることが素晴らしいと感じる。
・ＰＴＡの考え方が地域の人に理解されてきていないのではないか。子どもたちの幅が広くて教師も大変だと思うが、理解してもらえるようにしていかなくてはならない。
・放課後こどもチャレンジ教室については保護者も参加できるようにしていきたい。学校の敷居が高かったのを低くするいい機会となるのではないか。
・こんなにたくさんの地域や先生方から深く愛されていて美麻の子どもたちは幸せだと思った。

## 2　授業作りへの評価について

・総合的な学習や生活科の評価がない。数値化する評価は難しいと感じるが、生涯学習において重要な役割をしているので、その評価が出てこないのがもったいない気がする。
・なぜ対話が必要なのか、対話が当たり前のようになっているが、対話を充実させるには、自分たちが必要だと求めることが大切だと思う。
・ステップ期の評価が低いのは、転入生が多いことで前に進めなかったことが起因していると考えられる。
・ホップ期の対話が教師の指導により育ってきているのを感じるが、ただ、学校全体を見たときに先生の教え方に差（協働の学びができているクラスとそうではないクラス）が出てきているのも感じる。
・学びづくりの評価が大変多様で情報量が多い。目標がずれてきていないかと感じる。単純化したほうがよいのではないかと感じる。しかし、常に歩みを止めずに進んでいくことも大切。そのためにも情報量が多くなってしまうのは仕方がなく思う。
・春の休業で体力が落ちてしまっていた子どもたちだったが、元気アップが始まり、少しずつ体力を取り戻せていた。スクールバス等での登下校なので、運動できる環境は大切にしたいと感じる。
・集団作りの効果は大きい、特にミニミニグループの効果は絶大だと思う。上級生が下級生をいたわっていることを感じる。学年だけでなく、縦の上下関係のつながりがとてもよい。
・対話の成果なのか、子どもたちの喋りが達者になってきていると感じる。

・協働の学びづくりでは、対話を活かして、メリハリのついた授業をさせていくことが大切だと思う。
・放課後学習室で子どもたちの学習不安がでてきている。基礎的なことが分かっていない子どもがいることが気になる。学習室で対応はしていくが、学校としても解決できるように考えていってほしい。
・全体的な評価としてはよかったと感じているが、教科によって差が生じているのは気になる。
・自立する生き方を求めて宿題を出さないと結局家庭での勉強をやらない。学習する習慣づけをどうやっていくのかが大切なことだと思う。
・短い時間の中で、教師側がどういった学習をするのかをしっかり組み立てていかないと対話も成り立たないので、よく考えて内容の濃い対話にしていけたらと思う。

美麻学校運営協議会長
北沢　伊紘男